

早稲田大学の小保方氏の学位認定と、その後の CDB の STAP 細胞の論文取り下げ事件は直結しております。本学位論文が、その内容に限らずその後の波及効果も含めて、今までに取り上げられた学位論文の中でも最悪のレベルに位置することは明白であります。その学位を認可するという今回の早稲田大学の調査結果は、(少なくとも日本における) PhD の価値および大学院教育の意義を完全に否定するものとなります。これは、先進国においてあり得ない事態といえます。

渡邊嘉典 (東大・分生研)